

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【公民／政治・経済】

1. 対象（3年生普通科文系クラス）

浜松湖東高校は、浜松市郊外に立地する普通科高校である。就職希望者は数パーセントで、ほとんどが大学・短大・専門学校へ進学するが、4年制大学へ一般受験で臨む者から専門学校へ推薦入試で進学する者まで、生徒の学力や学習状況、学習への意欲などについて大きな幅がある。

「政治・経済」は3年生文系生徒全員（5クラス 各40～42人）が履修する。本校生徒はほとんどが大学・短大・専門学校へ進学するが、4年制大学へ一般受験で臨む者から専門学校へ推薦入試で進学する者まで、生徒の学力や学習状況、学習への意欲などについて大きな幅がある。授業に対する取り組みは全体的に真面目で落ち着いている。3年生ということもあり、政治や経済に関する社会事象への関心があり、意欲的に授業を受けようとする生徒もいる一方、授業内容にほとんど興味を示さない生徒も存在する。このような学力・意欲等に差がある生徒の集団に対して、効果的に力をつけさせることが授業における課題である。

2. 単元名「福祉社会と日本経済の課題」（全8時間）

3. 単元目標

これまで学習してきた経済分野の基礎的事項を土台として、現実の社会課題について、経済的視点から多面的に考察する。日本経済は様々な課題を抱えているが、その代表的なものについていくつか考察することにより、それらに共通する特徴や問題点が見えてくる。政府や企業、家計（消費者）それぞれの立場の振舞いについて、その特徴や問題点を明らかにし、社会の構成員として、そして最終的には「主権者としてどのように行動すべきか」というところまで考えさせたい。

4. 本時の目標

日本の農業の現状について資料を元に考察したことをまとめ、今後の農業のために必要・有効な手立ては何か、グループで考察し提言として発表する。

5. 授業展開

解決したい課題や問い			
日本の農業の未来は？			
考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C	考えるための材料D
「政府の農業政策」 現状を形作ってきた農業政策について理解するための資料。	「食料安全保障と食の安全性」 農産物の輸入に関する課題について説明した資料。	「自由貿易論」 主に農産物輸入のメリットを説明する資料。	「これからの日本の農業」 日本の農業が厳しい状況もある中、近年農業に関する積極的取り組みを説明する資料。
想定される活動			
資料集とプリントを読み取り、日本の農業政策の変化について理解する。	主に食料を輸入するデメリットについて考察する。	自由貿易論について、そのメリット・デメリットについて考察する。	農業の現状を打破する新たな取り組みについて理解し、その可能性や課題について考える。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

対話の方法

<講義>（5分）

日本の農業の現状について、本時のテーマと流れを説明。

<グループワーク>（10分）

4人グループで資料集を参考にして日本の農業の現状についてプリントに取り組み課題を確認する。

<エキスパート活動>（20分）

4人グループで材料A～Dの担当別に分かれ、それぞれの資料を読み込みポイントをまとめる。

<ジグソー活動>（20分）

材料A～Dの担当者が各自でまとめたポイントについて、日本の農業の未来に役立ちそうな内容を中心に、グループ内で共有する。

共有した内容を元に、日本の農業の未来のために、誰にどのような提言をするのか相談してまとめる。発表にあたり、どうしたら効果的な発表ができるか考え準備する。

<クロストーク>（15分）

各班の提言を発表する。

思考のプロセス

<多面的思考に基づく判断>

多様な観点による資料を活用して、総合的に課題を考察して判断する。

<根拠に基づく主張>

現状についての正確な理解をもとに、論理的に説明できるように話し合う。

<他者とのかかわりによる思考の深化>

様々な観点から課題を考察する中で、自分の考えを整理し、他者の意見等も参考にすることにより自分の思考を深化させる。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

○日本政府は農業の保護に力を入れるべき

- ・ 輸入が増えると、農業は壊滅的打撃を受ける。食料安全保障や安全性の観点から農業を守るべき。
- ・ 農業は単に食料を供給するだけでなく、国土や環境の保全、野生生物の保護など多面的役割を担っている。安価な農産物という目先の利益のために農業を犠牲にすると後から後悔する。
- ・ 食料輸入は、価格だけでなく安全性や持続性なども考慮する必要がある。現状では輸入農産物の安全性が確保できているとは言い難い。
- ・ 食料輸入はフードマイレージの観点から、環境への負荷が大きく推進すべきではない。

○農産物の輸入に踏み切るべき

- ・ 安い農産物が手に入り、工業製品の輸出もしやすくなる。
- ・ 食料安全保障は重要だが、食料確保だけでは国は守れない。国の安全は外交努力で確保すべきで、農業の保護とは切り離して考えるべき。

○その他

- ・ 国は食料自給率向上や輸送コスト、地方経済の活性化などのため、地産地消を推奨すべきである。そのような取り組みを行う農家や飲食店の支援を行うべき。
- ・ 日本の農家は、農業の六次産業化によって利益の拡大をはかり農業の発展に努力すべきである。政府もそのような農家に対して支援すべき。
- ・ 日本政府は、外国の政府や農家に、日本の農業基準を守ること、遺伝子組み換え作物を日本に輸出しないことを要求すべきである。

育成すべき資質・能力三つの柱から上記のあらわれを評価するための視点

①知識・技能	日本の農業の現状について、正しく理解している。
②思考力・判断力・表現力	現状について複数の情報を元に、どのように対応すべきか意見をまとめ、文章で表現できる。
③主体性・学びに向かう力 協働性など	グループでの話し合いに積極的にかかわり、相手を説得するための説明を自分の言葉でできるように主体的に考えようとしている。また、メンバーとのやりとりにより理解が深まり、自分の考えをより深化させている。

授業実践振り返りシート（授業前後）

授業開始直後と授業終了時の学習課題に対する考え（あらわれ）を比較・分析することで、生徒の学習状況を把握し、授業設計診断4項目の視点に立って授業設計を見直す。

	授業開始直後の学習課題に対する考え	授業終了時の学習課題に対する考え
Aさん	<ul style="list-style-type: none"> ・農業問題は農家だけの問題 ・高齢化が進み耕作放棄地も増加し改善が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・農家だけの問題ではなく、自分たちにも関係のある身近な問題だとわかった。 ・企業の農業参入が増え、耕作放棄地の利用や若者の農業への就職も広がる可能性あり。もっと進めるべき。
Bさん	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進み、後継者不足に陥っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・政府の政策が、農家の保護だけでなく環境保全などの多様な農業の機能に着目して行われるようになった。 ・農産物の輸入自由化は、海外から安く農産物を輸入できるが、食料品の安全性の問題や、有事の際に最低限の食料を確保する必要についても考える必要あり。
Cさん	<ul style="list-style-type: none"> ・自分には関係がないので、関心が薄くて考えるのが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業問題の重要な点を理解し知識も増やせた。 ・農業問題は世界経済につながり、自分たちにも深く関わっていると認識が変わった。 ・今の農業の状態は日本にとっていいものではないと考えるようになった。
Dさん	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者不足、それ以外あまりよく考えたことがなくわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・アグリビジネスではハイテク技術を駆使したり、日本のブランドを世界へ輸出したりするなど、農業の自由化・国際化が進んでおり、農業従事者が問題解決に努力していることがわかった。 ・農業の未来について提言を考えたことで、農業についてより理解を深めることができた。
Eさん	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進み、就農人口が減少しているが、どう解決すればよいのかわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業に機械を導入すべきだと感じた。人手不足には、フリーターやニートといった人々の就労の方策を考えるべきだと思う。 ・食料自給率が低下していることを知った。

授業設計の振り返り	
<p>解決したい課題や問い</p>	<p>「農業問題に関心がなかった」が「知識が増えた」「深く考えることができた」などという記述が多く見られた。対話の場面のようすから、結論が収束しにくい課題設定になっていると感じたが、生徒の授業前後の変化や感想を見ると、農業問題が様々なことに関連していることや、ステレオタイプな理解からの脱出、思考の深まりも感じられる。それらの点からは、課題設定はそれほど悪くなかったのではないと思う。</p> <p>しかし、課題の内容から、議論や思考の広がりや多面的思考を期待して提言先を限定しなかったため、提言先・提言内容がともに絞り切れず、課題解決に向けての提言をまとめる段階で、どの班も話し合いが止まった。もう少し話し合いが収束するように課題を設定すればまとめやすかったと思われるが、そうすると思考の広がりや深まりは不十分になったのではないだろうか。</p> <p>多面的・多角的に課題をとらえてほしいという授業者の意図と、議論のしやすさという点をどう両立するのか、材料の準備と併せて十分に考える必要があり、課題設定の難しさを感じた。</p>

<p>考えるための材料</p>	<p>エキスパート課題を4つ用意したが、資料から読み取らせたい内容があいまいなものがあり、その資料をどう活用すればよいのか苦慮する様子が多くの班で見られた。内容が重複しているものがあるという指摘もあった。材料の吟味がジグソー法における大きなポイントの一つであることを思い知らされた。</p>
<p>対話と思考</p>	<p>エキスパート活動とジグソー活動ともに、ほぼ全員が内容理解や意見交換を積極的に行おうとする様子が見られた。また、与えられた課題だけにとどまらず、これまでの授業で学習した内容や既存の知識を織り込んで話し合おうとするなど、課題解決に向けて前向きに取り組もうとする生徒も多かった。議論の深まりや広がりも感じられる発言もあった。これらの点は大きな成果であったと思う。</p> <p>しかし、課題設定の項目でも述べたとおり、考えるための材料を対話により理解し班で共有するところまでは活発だったが、そこから提言をまとめる段階になって議論が停止した。課題設定や材料の吟味という点に課題があったと思うが、一方で、複数の資料を活用して1つの結論を導いていく、複数の材料を統合する力が不足していると感じた。これは要するに課題の本質を見抜く力が不足しているということである。このため、今回のような活動や日常の授業、テストなどにおいて、このような力を育成する内容を取り入れていく必要があると考えている。</p> <p>活発な対話が行われるためには、生徒一人一人に「何をいっても大丈夫」という安心感が必要である。学習・議論の過程では、誤りや見当違いな考えも当然出てくるが、そのような発言も吟味して修正を加えていくことで正しい知識や思考が強化・深化されていく。誤りを恐れて何も発言しなければ、活発な議論や思考の深まりなどは起こり得ない。この点において、学習者集団の人間関係づくりというのが大変重要である。信頼に裏打ちされた良好な人間関係ということに加え、学習に対する前向きな集団の雰囲気づくりが求められる。要は信頼が置ける授業に前向きなクラスづくり、ということだが、そのようなクラスができれば、一部の科目・授業だけでなくすべての授業において高い成果が達成できる。その意味で、集団作りは教員や生徒にとってとても重要である。良好な学習者集団と適切な課題がかみ合っただけで、よい授業が生まれると思う。</p>
<p>学習の成果</p>	<p>生徒の感想等から、これまでほとんど関心も知識もなかった農業問題について、様々な課題の存在に気付き、知識が増え考えも深まったという生徒が多く見られた。もちろん、実際にはもっと深く考えてほしいと思われる生徒も多いが、一見無関係に見える問題も、実は自分たちの生活や将来に大きく関わっていることに気付き、それについて対話を通じて考え、思考を深めようとしたことは意義があった。</p> <p>考えるための材料と対話する機会を与えることにより、受け身ではなく能動的に授業に参加するということがまず第一の目的である。しかしこれは手段にすぎず、そこで生まれる積極的な授業への参加が、思考の深化と本質理解の深まり、関連する課題への興味の広がりなどを引き出すことが本来の目的である。感想等を見る限りでは、そのような段階まで進んだ生徒も多くいるように思うが、一方で普段の授業の様子を見ると、社会問題への興味・関心が大幅に高まったとはとても思われな。意欲を引き出し思考力を高めるため、授業の更なる改善とその継続が必要である。</p>

出典：



大学発教育支援コンソーシアム推進機構